

# 高退協ニュース

高知高退協  
事務局  
1997・5・13  
№86

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸の内二丁目一〇番  
T 088-812-1682  
E 088-812-1683  
L 088-812-1683  
F 088-812-1683  
振替口座 徳島 五十一一八九三

## 高退協の定期総会開く 新役員に古味忠男、西田令子さん

4月26日、高知城ホールで開かれた総会には、新加入者4名をはじめ39名が参加しました。

司会に叶岡淑子さんを選んだ後、昨年度亡くなった8名のご冥福を祈って黙禱、坪井会長が挨拶し、退職した新加入者の紹介があった。山下氏に代わった井垣高教組新委員長のメッセージを受けました。

審議では、第2次勸評裁判の勝利的和解と一ツ橋小教育介入裁判の勝利判決で、関係者から謝意ののべられ、中広い共同がすすむ護憲運動や平和運動に参加を要請する補強意見があつて、事務局が提案した経過報告と活動方針が承認されました。

その他の件では、事務局の要請で国松県教組委員長が、「土佐の教育を語る会」の答申をどう見るかを報告し、質疑が行われました。教員増など評価すべき点と同時に、今後の運動で前進すべき点、或いは克服すべきこともあり、その努力が要請されました。

最後に、5年にわたって事務局員として努力された窪田充治さんの退任と、新たな事務局員に古味、西田さんを選び、閉会しました。

## 盛大に 「退職者を励ます会」

総会につづく「励ます会」は、4階ホールで約91名が集まり、にぎやかに行われました。

今春の退職者の多くは、勤評闘争も終盤の困難な時期に組合に加入しただけに、胸を打たれるものがありました。

高退協からは40名が参加、長年の労苦をねぎらい、久しぶりに再会する人びとも多く、つきぬ話に遅くまで旧交を暖めていました。

## <再録> 慶弔内規

- (1) 死亡見舞 10,000円
- (2) 米寿の祝 記念品(10,000円相当)
- (3) 入院見舞 3,000円(入院期間が1カ月以上にわたる場合、本人または家族よりの申請に基づいて適用)
- (4) その他、事務局会議が必要と認めた場合 相当額
- (5) 運用の細目については、その都度事務局会議で検討の上執行する
- (6) 適用は1992年4月1日以降とする

<お願い> 該当する方がおいでしたら、事務局までお知らせ下さい。

## 退任のご挨拶

高退協事務局を5年間つとめさせて頂きました。その間に高退協の現職員、活動のみなさんのユニークな活動をかきまることができて大きな感銘を受けました。今後も一会員としてみなさんと共に親睦、交流を深めたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございます。(窪田 充治)

## 新役員あいさつ

古味 忠男  
先日ある先輩から「自由民権記念館友の会の手伝いをしてもらいたい」との話があり、「何も出来んが使い走り程度なら」と安請合いましたところ、後日、高退協の役員の一人名に白黒させて進退谷まっつてくる限り頑張るつもりです。すのでよろしくお願ひします。

西田 令子

退職して、あつという間に一年経つてしまいました。一人がみんなのために、みんなが一人のために”をモットーに、高退協の強い絆も二十年をこえていよいよ世紀末に突入します。この大事な時期に、元高教組に四十年も籍を置いたとはいつても、もはやその名残も止めないものが、何ほどのお役に立てるとも思えず、誠に不安ですが、先輩に教えていただき、初めからやり直すつもりで出させてください。よろしくお願いします。

## 訃報

会員の尾崎勇喜先生が三月七日に死去されました。  
ご冥福を心からお祈り申し上げます。

## 老声草

イギリスの政治学者ラスキは「あなたも政治は忘れてたを忘れない」という名文句を残している。この名句が今日改めて痛感される。日本の政治のひどさのせいである。

年金は上がらず、超低金利は続く。特別減税は廃止、消費税は5%に。さらには医療費の値上がり計画。まさに踏んだり蹴つたりの政治！いやでも政治改革への熱情が高まる。

戦後半世紀以上もたった今日、基地のなかに苦しむ沖縄県民。土地永久取り上げ法ともいえる「特措法」が、県民、国民の切なる願いと激しい運動を無視し、「翼賛国会」で強行成立。「もういいかげんにせんか」と怒り心頭。

かつて、一九六〇年七月、闘う青年教師の一人としてはせ参じた「三池炭坑闘争支援オルグ」、その中で知った政府独占のエネルギー政策転換による大量首切合理化、労働者の良心や勤勉さは全く問題にならず、一方的に切り捨てられる弱い立場、それだけに組合に結集して闘うことの重要性を学んだ想い出。その三池炭坑もついに閉山された。

教組員として、人勧完全実施要求での全国統一闘争への参加と被処分、平和・民主教育擁護を掲げての教組運動への不当な処分や組合差別等、どれ一つとつても、反動政治の押しつけた結果でないものはない。

これらの体験や、現状を思うとき、「権利のための闘争」「住民・国民本位の民主政治」を求める運動がいかに重要なかを再認識する今日この頃である。

老いたりといえども、「生きる証し」として、斎藤別当実盛の故事にならつて、可能なかぎり頑張らなくてはと、張り切る私である。共に元氣一杯頑張ろう。(岡崎)



「素東寺日記」抄

坪井 幹之

二月

「八日」「高退協読書会」。参加者九名。都留さんの「日米安保解消への道」をテキストに論議。いかにして安保を廃棄するか。切齒扼腕、悲憤慷慨、久しぶりに老いの血がたぎるの感に終始。次回五月には、「日本の戦争責任」と「少年H」を取り上げる予定。解散後、居酒屋に立ち寄り希望者四名で懐古談。

「九日」「山の会」ハイキング。参加者二十六名、高南台地の影野駅に集合。七子峠から桜の名所大坂へ下る。途中黒竹の竹林で昼食。土佐久礼の温泉施設「黒潮本陣」で旅の汗を流す。大正市場でそれぞれ買物。各駅停車の列車で帰途に着く。快晴で日差しは春の気配、ところどころヒカクン桜が満開。来月は小豆島へ。「十一日」一時よりニューズ発送準備。つづいて高退協事務局会議。中心議題は総会の議案審議。選挙活動の総括を



高教組便り

高退協の出番

高教組も世代交代が行われている。この四月、委員長が山下正寿氏から井垣政利氏に引き継がれた。山下氏がぎりぎりの戦中派45年2月生まれに対し、井垣氏は47年8月生まれ、戦後派で高退協ジュニア。生まれは同じ宿毛で二人とも社会科、蛇足ながら「紅燈の巷」で高尚な裏芸人であることも共通する。なお、二世には熊沢・安芸氏のメンバーもいる。

山下氏は、執行部二度目、今回も共働きの奥さんと生活の本拠地を高知に移しての四年間のお勤めであった。ご苦労様。この四年間は高教組の試練の時期と重なる。これまで慣行とされ「教特法」の主旨にも合致し、いわゆる

めぐつて活発な意見交換。「十四日」風邪で体調を崩し遠ざかっていた「老泳会」にやっと参加。菜種梅雨のはしりのような天気。プールにも賑わいが戻る。「十九日」高退協役員選挙委員会に出席、現事務局の意向を報告。協議は半時間程度で終わる。恒例の慰労会(?)を「竜馬茶屋」で。

「二十八日」「老泳会」で泳ぐ。今や桜花爛漫の候。とにかく月日の立つのが早すぎる。「三十日」「山の会」説明会を高知城ホールで開く。東京より富士国際旅行社の市原社長を迎えて、総勢三〇名参加。中央アルプス縦走の打合せのあと英国ツアーとヒマラヤトレッキングについて説明を受く。五時よりてんぷら料理の「天賀」で、慣例の市原さんを囲んでの会食を持つ。これには十七名の参加。

四月

「四日」「老泳会」長寿手帳を持参。初めて無料で、市営プールへ。季節は菜種梅雨に

「半専従」として認められた執行委員の活動が一切ダメになり、年休、賃金カット休暇、深夜や休日の執行委員会を続けてきた。この逆境の「失うべき何もない」状況で、組合運動の原則に立った模索が始まった。一つは、特定組合の役員経験者や事務局エリートたちで主要ポストを「たらい回し」する構図入りの「虚構の骨格」なる人事黒書の発表で県民の注目を集めた。二つ目は教員採用試験の「出題ミス」と採用をめぐる「黒い霧」の追及である。これはいわゆる「出題ミス裁判」として今も裁判中である。三つ目は教育オンブズマンによるカラ出張追及である。この情報公開のなかで県同和教育関係の一番重要な年度の出張関係書類の紛失が明らかとなった。

自浄作用を失った県教育行政に二期目橋本知事は教育改革を公約のトップに掲げ昨年の「土佐の教育を考える会」のスタートになり、高教組は山下、県教組は高校出身の国松勝の両氏を33名の委員の中に送りこんだ。

入り、雨空。

「六日」「山の会」四月例会「小豆島山行の旅」に出発。同行七名。濃霧の瀬戸内海を渡る。予定を変更して、田の浦の「映画村」へ。「壺井栄文学館」等を見学後、「ひろきや」に泊まる。

「七日」曇天の中、小豆島の最高峰・星ガ城山を目指す。名勝・寒霞溪の紅雲亭から、椿の咲く奇巖の道を辿って四望頂へ。三笠山から西峰、東峰と稜線を縦走。途中より、屋島、五剣山を遠望。三角点のある頂上で昼食。四百円の寿司弁当は絶品。この頃には青空も。記念写真のあと下山にかかる。「太陽の丘」でひと休み。島四国札所「清滝山」より遍路道を下る。満開の桜並木を見て「ひろきや」へ。「八日」最終日。朝から快晴坂手でバスを降り、遍路道を札所「碓石山」まで登る。ここから目的の洞雲山までは、鎖場もあるなかなかの難路。切り立った頂上からの眺めはさすが。眼下に「島の春」が

この中で両氏は対立点是指摘にとどめて、一致、合意できる課題で毎回現場の実態を示す具体的な資料を提示しPTA役員、主婦の委員の発言に支えられ事実と道理に基づいた議論で会をリードした。

他方、校長、地教委、他職員団体代表にはそうした具体的意見は見られず、県民の側に立った意見を「逆流」ととらえる意見も今だに根深くある。

いま提言の中身である「開かれた学校づくり」をどう具体的に地域と学校で推進するか問われている。これまでの「ひらめき型」管理職ではできないテーマであり、過日の教育センター研究大会でも現場の戸惑いが報告された。学校を地域のなかでとらえ変革していくリーダーがいま求められている。

この「開かれた学校づくり」推進のため「学校教育と関わり」の深い教育・文化関係者が地域の教育NGOとして必要なときがきた。地域に住む高退協メンバーも出番である。

梅原憲作

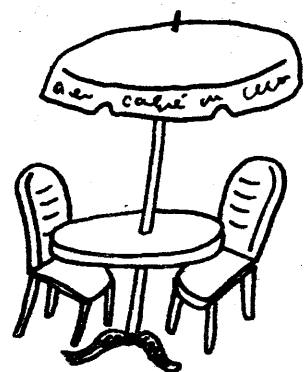
広がる。満ち足りた気分を山を下りる。有名な醤油工場「丸金」の前でバスに乗車。途中で採取した山菜、買い集めた土産物を背に帰路につく。「十日」一時より総会議案の製本、発送準備。終了後、事務局会議。総会議案など議題十一項目を討議。議案を配布しながら帰途につく。

「十二日」「土佐街道を山原代議士と歩く会」に参加。愛媛・高知両県より八〇数名、高退協関係一〇名の参加。参勤交代の道「土佐街道」の保存運動の一環。笹ヶ峰の北面の魚坂「腹包丁」を見学。昼食後、法皇山系の北面を川之江まで下る。土佐藩によって枝を切られた「槍下げの松」を見学して帰高。

「十九日」「安保問題シンポジウム」に出席。沖縄問題を契機に安保に対する関心が強まっているのか、満席の参加者で立ち見の人も。結局、安保廃棄は選挙で革新統一が勝利することによって切り開かれるものだろう。

「二十五日」「老泳会」久しぶりに全員揃う。山からはシヤクナゲ・アケボノツツジの花の便りが。「二十六日」二時より緊急の事務局会議。「土佐の教育を考える会」についての学習会と新加入者の確認について相談。二時半より高退協総会。

新加入者四名の出席もあつて満席の盛況。滞りなく全議案を承認。五時からは恒例の「退職者を励ます会」あり。この方も盛会。乾杯の音頭をとらされたせいか、呑みつぶりがよすぎたように思う。またまた反省。



「卯月句会」平成9年3月29日  
鏡村・鏡湖公園

ひそけしや武蔵あぶみといふ花は 伸 秋  
 ダム湖へと段畑拓け花櫛 みち代  
 吟行の傘の軽しや花の雨 たねを  
 今日雨呼びし棚田の蛙かと さちを  
 鶯の谷わたり湖わたり来る 伸 秋  
 山姥の声聞こえそう山笑ふ 伸 秋  
 無住寺に武蔵鏡の一夜かな 伸 秋  
 分校も今は廃校花の雨 たねを  
 お地蔵の御衣ゆるほす花の雨 伸 秋  
 山際に彩り見ゆる藤籬 伸 秋  
 静かなる花の雨とて湖畔みち 伸 秋  
 雪洞も花も静もり花の雨 伸 秋  
 まだ残る鴛鴦へ名残の雨となる さちを



### 「輝け！日本国憲法」

—憲法施行50周年の集い—

日本で初めての企画となつた憲法を守る会・第九条の会・護憲フォーラム・憲法会議の大同団結の憲法集會が高知ホールで開かれ、主催者の予想を大きく上回る約六〇〇名が、センタール合唱団の文化行事、憲法九条の歌、浅井基之氏、上田耕一郎氏の講演に聞き入り、4階ホールの熱気は第2会場にも伝わりました。大日本は国際社会の先陣を切る根拠として日本国憲法をもち、前文と第九条が、その方向性を出している。私たちが厳しい現実をひっくり返し、危機的な状況を国民に理解してもらえよう、ここ高知が全国に灯台の役割を」との浅井

氏の結びの言葉、西岡氏の詩による決意表明とすばらしい学習会でした。5月3日を新しい出発点として、いっそう幅広い共同を作り上げ、「輝け！日本国憲法」憲法の平和的・民主的原則を守り発展させよう！くらしの中に憲法を「の運動を大きく発展させることを誓い合いました。高退協は約30名の参加で懇談会ももたれました。

### フライデー・テニス

#### クラブへのお誘い

夜間定時制のメンバーが週一回、午前中に集まってはじめてのが退職後も続いていきます。現職や高退協以外の人もいますが、会員が

### 新会員よりの

退職を人生の大切な節目として、今まで以上に生きることを楽しみ、そしてより行動してみたいとライフワークをたててみます。よろしくお願ひ致します。

上岡 積

「退職者を励ます会」に、二、三度出席しましたが、高退協の先生方の元気さは現職の数倍と感服してました。私などが加入すれば足手まといになるばかりですが、よろしくお願ひします。



中心です。

体、とくに、腰、ひざ、足首などに故障のある方にはおすすめでできませんが、不自由なく歩ける方ならまず大丈夫です。今では、週二回、月、金の九時半から十一時半までの二時間、みどりしたたる雰囲気の春野運動公園テニスコートで楽しんでます。近くに県営プールもあり、昼食（レストランあり）・水泳とセツトで楽しむこともできます。しごく結びつきがゆるやかなクラブで、体調のよい時に参加し、その時三百円を支払うようにして、別に会費はありません。年二回くらい親睦の会を開いていますが、この出席率はかなりのものです。

会員のみなさん、一度のぞいてみてください。散歩の場所としてもなかなかのところです。「あの人かテニスを」と思われる人（誰をさすでしょう？）が嬉々としてラケットを振っているのを発見することができまます。なお、今までに、日本にきている外国人も参加していたことが数回ありました。アメリカ、マレーシア、フィリピンなどです。今やインターナショナル・TCとでも改名かという状況です。（窪田一郎）

### 「老・眼・鏡」

#### 「少年H」(上・下)

先ず著者（妹尾河童氏）をご紹介しよう。一九三〇年神戸生まれ。グラフィック・デザイナーを経て、現在、数々の賞を得ている、日本を代表する舞台美術家である。年令は67才ぐらいだから、私達とはほぼ同じ世代。この本は、氏の少年時代の戦争体験を基にしての「回想記」である。（記憶力の旺盛なのに驚く）が、唯の「思い出の記」ではない。実に鋭い批判力をもって大人たちのウソを告発し、大人たちにウソをつかせる根本に「現人神の天皇があり」それに乗っかる軍の横暴がある。しかもその描き方が、自然で面白い。だからベストセラーになっていると思う。

とくに注意したいのは、この本に書かれている時代と現代が、だんだん似てきつつありはしないか、という点である。

天皇は神でこそなくなつたが依然存在しているし、日独伊同盟はなくなったが日米軍事同盟があつて、ますます強く縛られている。この前の「沖繩の軍用地をめぐる特別措置法」を強行した国会を見ても危惧の念を深くさせられる。「教え子を再び戦場に送らない」と誓った私たち、この機会に一読願ひたくすいせん申します。（H）

### 会員の消息

（町田祐一さん）三月八日、隣家の風呂場からの飛び火で窯場（穴窯と単窯）一登り窯の一室）と高価な木工機械のあるアトリエが全焼、本宅は免れたものの三年位前より準備してあつた薪も全部消失。お見舞い申し上げます。（林 勤さん）文筆のみならずマラソンにも年季のはいつた方。七月オーストラリアでおこなはれるゴールドコースト・ハーフ・マラソンに選ばれて参加。ご健闘をお祈りします。

会員の病氣や動静その他知らせてやりたいことなどありましたら事務局員までご連絡ください。

### 高退協クラブの紹介

**山の会** 月1回山行 その都度ハガキで案内 会費不要、参加料徴収 問い合わせは坪井（75-0998）まで なお、今年は英国ツアー（6月）、中央アルプスと開田高原散策（8月）、ヒマラヤトレッキング（10月）を予定

**読書会** 隔月1回 会場はムト一荘 その都度ハガキで連絡 参加料500円 問い合わせは坪井まで 5月例会では「日本の戦争責任」と「少年H」を

**老泳会** 週1回、市営プールへ（65才以上は無料） 問い合わせは浜田隆史（72-08431）まで

### 旅 沖繩うづぐみの旅

五月の連休に、沖繩、石垣島、竹富島、西表島などを旅してきました。退婦教の鍋島寿美枝さんの「うづぐみは時を超えて」に描かれていたように、太平洋戦争中に竹富島の防衛に派遣された大石部隊(大石喬隊長=高知市越前町、八七才)と島の人々との間に生まれた心あつたまる信頼と協力の関係すなわち「うづぐみの心」を体験してきました。我々の任務は島を守ることだ。島民に一切迷惑をかけるはならぬ。ゴイヤ一本、卵一個たりとも盗んだら許さん」という大石隊長の言葉どおり、部隊は島民のために尽くしました。部隊の米を西表島までつくりに行ったり、マラリアにかかった島民を軍医に手当てさせたり、竹富国民学校の桃園用永校長と平和教育について語ったり、というようにヒューマニズムに徹した大石隊長を囲んで、今回も唄と踊りを交えての素晴らしい交流会となりました。



島の標高は海拔二四メートル、周囲約九キロの円い珊瑚礁の島です。人口二七一人の中で六五才以上は九六人という長寿の島。しかもボケと寝たきりゼロ。最高齢は一〇四才。町並み保存地区に指定され、ブルーゲンピアアが咲きこぼれる石垣に囲まれた赤瓦の家が並び、その間の白い砂の狭い道を水牛車でゆっくりまわりまわす。まるで何百年も前の状態です。珊瑚礁に囲まれて何百メートルも沖まで遠浅が続き、砂浜には「星の砂」がザラザラ。安里屋ユンタの発祥の地でもあります。西表島ではマングローブの原生林や珊瑚礁に群れ遊ぶ熱帯魚を見て、海の中を水牛車で由布島に渡り、熱帯植物園を見学。黒潮民族である日本民族にとつて、沖繩、八重山は民族の故郷、母なる楽園です。明治維新以前の約四百年にわたる琉球王国は東南アジアや中国と平和な貿易をしていました。その母なる楽園に、いま日本は何をしていくのか、日米安保を「国是」として最優先し、「沖繩の心」を踏みにじっている政治に、あらためて怒りを覚えた「うづぐみの旅」でした。(窪田充治)

### 意気高く 第6回メデー

初夏の日差しに汗ばむ快晴の5月1日、丸ノ内緑地に75労組・団体の千二百人が集まりました。国松県労連委員長が「生活と平和・民主主義を守る運動の先頭に立とう」と挨拶、山原代議士は「翼賛議會を打破して国民が主人公の政治を」と訴え、4つの職場の決意表明があつて、デモ行進が行われました。高教組の青年部はカツパ姿でデモンストレーション、それにつづいて高退協の10数名も元氣に行進しました。

### 安保問題シンポジウム

高知平民懇・県平和委員会主催で、4月19日(土)ふくし交流プラザを会場に約一八〇名の参加者で開かれました。問題提起者として、全国平和委員会事務局長、須田博さんが「いま沖繩・安保はどうなっているか」をレジュメにそつて約四〇分、本山町から低空飛行、栗原さんからリマ海域、山原さんから土佐湾原潜演習阻止のとりくみなどが報告され、フロアー発言8名と、日本の平和と安全、主権と進路について考える集会でした。高退協から10名の参加でした。

### 健康手帳

### 私の健康法

弘瀬和子



これまで大した病氣もせず、六十も半ばになると、いささか健康も気になつてきた。これからの日々を健康に過ごすためには、しなればならないことはたくさんある。そのなかで一つでも二つでも「実行する」ことが大事だと思つてヨガのサークルに入れてもらった。多少腰痛もあり、自転車でも転んで傷めた膝のことなどヨガを始めるとはそれなりの理由があつたのだが、サークルに入つてみて驚いた。

「ヨガは呼吸法です」という先生の言葉に、私のヨガに対する認識不足が恥ずかしくなつた。私は単純に柔軟体操のようなつもりでいたのである。それから先生が時折してくださる解説を聞いて、ヨガは体内から全身の健康を守り、更に精神の健康をも守るものなのだといふことに気付いてきた。週に一度のヨガをすまして隔路につく時、低い私の身長も一センチ伸びたのではと思つた。背筋がびんとしたような爽快な気分になる。「少しでも毎日実行してください」という先生の言葉に促されて、毎日とすることは心掛けていた。

また食べるものも大事だと思つた。これは毎日数種類の野菜をミキサーにかけ、どろどろになつた青汁に少量の塩を入れて食べている。これでビタミン、ミネラル等の栄養は十分と満足することも精神安定剤的役割を果たし、心身の健康に役立っているのではなにかと思つた。時折顔を合わせる友人の元氣な姿を見るにつけ、私も力が湧いてくる。いつまでも皆が元氣でいてほしいと願うばかりである。

### 相撲三知識 二十

林 勤

決まり手と 勝負の決め方(1)

相撲の決まり手は「七十手と腰くだけ、勇(いさ)み足」である。これは、何回かの交遷を経て、昭和三十五年一月場所に決定されたものである。

互いに攻め合つて、その技で勝負をつけるのが普通であるが、腰くだけと勇み足は「決め技でない決まり手」とでも言うか、動きの中で一方が自滅をして勝負が決まるものである。そのために七十手の外に出しているのである。

この二手について少し説明すると、腰くだけは動きの中で一方がバランスを崩して腰がくだけ、崩れ落ちるように手をついたり、尻もちをついたりする。勇み足は、相手を土俵際まで追い詰めておきながら、相手が出る、または倒れる前に、勢いあまつて自分の足を出すことである。

もつとも、七十手の中にも、一方の自滅で勝負が決まるものが全く無いとは言えない。例えば、AがBを叩きこんだときに後へ下がりが過ぎて足が出た場合は、Aの自滅であるのに、「押し出してBの勝ち」となる等である。

昨年十一月場所六日目に土佐ノ海が貴闘力に勝つた「首捻り」は、昭和三十年五月場所(当時は六十八手)に決まり手を決定して以来初めて使われた決まり手である。十面ではまだ使われたことがない。

平成九年三月場所終了時点で、まだ使われたことのない決まり手は、幕内で四手、十面では六手あるが、十面幕内共に使われていないのは「掛け反り、撞木反り、外たすき反り」の三手である。昭和三十一年三月場所から星取表に決まり手が出るようになったので、星取表を見れば、〇年〇月場所〇日目に〇と〇が対戦し、決まり手は〇で〇の勝ち、というところが総てわかる。但し、幕下以下には決まり手の記録はない。

